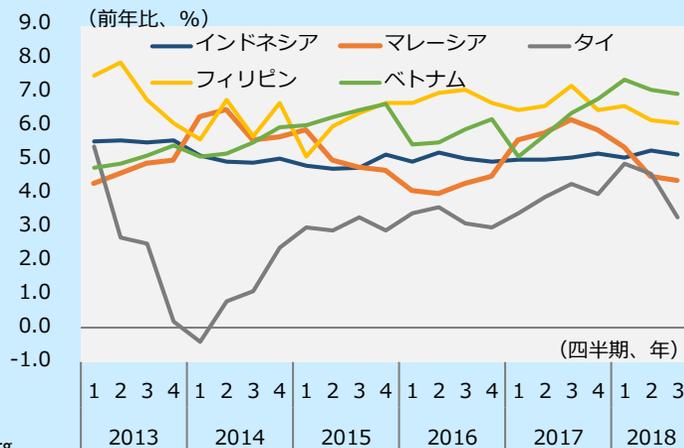


ASEAN : GDP成長率 (2018年7-9月期)

—依然高い水準だが成長鈍化の兆し—

MRI Daily Economic Points
November 21, 2018

図表1 GDP成長率



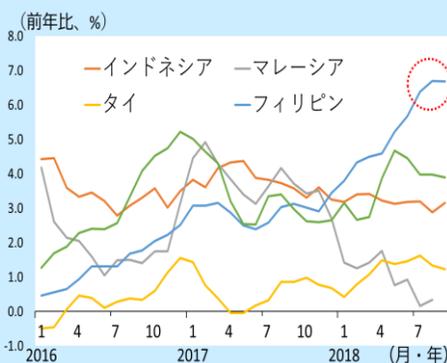
出所: Bloomberg

図表2 各国通貨の対ドルレート



注: 対米ドルレート。2015年1月1日=100として指数化。
出所: Bloomberg より三菱総合研究所作成

図表3 消費者物価上昇率



出所: CEIC, Bloomberg より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- ASEAN5の7-9月期のGDP成長率(前年比)は、インドネシア5.2%、フィリピン6.1%、マレーシア4.4%、ベトナム7.0%、タイ3.3%だった。4-6月期に比べ、全ての国で成長率は減速した(図表1)。
- 需要項目別寄与度でみると、消費はベトナムでは小売り・観光が好調、タイ・マレーシアでは可処分所得の増加を背景に堅調だったが、フィリピンでは物価上昇のため鈍化。輸出はベトナムは好調(米国・EU向けが大幅増加)だった一方、中国の成長率鈍化などにより、タイ、インドネシア、フィリピンで大幅に減速。各国のGDP成長率を引き下げた要因の一つとなった。

基調判断と今後の流れ

- ASEAN5の経済の先行きは、中国の景気刺激策による効果も期待されるものの、全体としては2019年にかけて緩やかな成長鈍化を見込む。
- 輸出は、足元で減速が顕著となったタイ、インドネシア、フィリピンなどを中心に、今後も米中貿易摩擦の影響が顕在化し減速するだろう。
- 消費は自国通貨安(図表2)による輸入物価押し上げを通じた国内消費停滞が懸念される。特にフィリピンでは消費者物価指数の伸びの上昇が顕著となっている(図表3)。こうした動きが他のASEAN諸国にも波及することで、消費は緩やかに下押しされると予想。
- 通貨安は投資にも影響を与える可能性がある。ファンダメンタルズが脆弱なフィリピン、インドネシアを中心に、米国の利上げにより新興国通貨安が進んだことから、インドネシアとフィリピンでは政策金利を今年6回引き上げた。それに伴い、投資も抑制される可能性がある。米国の金利上昇などを背景に世界的なリスク回避姿勢が緩やかに高まる中、ASEANを含む新興国の通貨安と投資の下方リスクには警戒が必要だ。